

小学校長における特別支援教育推進に関わる意識調査

岡田信吾（教育心理学科）

Survey on the consciousness of primary school principals about the special needs education.

Shingo OKADA

(Department of Educational Psychology)

抄 録

特別支援教育本格実施5年を経た小学校長の特別支援教育に関する意識を調査した。その結果、特別支援教育に関して理念には賛同するものの、実施においては多くの課題があり、自分自身の特別支援教育に関する知識も十分ではないと考えている実態が明らかとなった。また、特別支援教育の推進において重要視する取り組みとして、「保護者との連携」、「関係機関との連携」、「校内委員会の活用」が挙げられた。これらは、先行研究において指摘されてきた内容と同様である。今回の調査において新たに、校内における研修テーマが「障害理解」から「実態把握」に移行しつつあるという点と、特別支援学校からのサポート経験によって期待するサポート内容に差があるという点が明らかとなった。

キーワード：小学校長、特別支援教育、意識調査

I はじめに

2007年に特別支援教育が本格実施され5年が経過した。特別支援教育は、障害のある子どもの自立や社会参加を目指した主体的な取り組みを支援し、従来の特殊教育の対象とされていなかった知的な遅れのない学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能広汎性発達障害（以下、LD、ADHD、HFPDDの略称で記す）などの発達障害も対象として、彼らの在籍するすべての教育現場（以下、学校と記す）における実施が求められた^{[1][2]}。さらに、「特別支援教育は共生社会形成の基礎を培う」と記され、教育の在り方にとどまらず社会の有り様にも言い及んだ。この推進において強調されたのが、校長のリーダーシップの下に各学校における支援体制が整備されることであった。すなわち、学校経営の在り方が特別支援教育の対象となる子どもの将来にも影響を及ぼすとの認識を校長に強く求めているのである^{[1][2]}。

これらのことから、校長の認識が各学校における特別支援教育の推進に及ぼす影響は非常に大きい。これまで、特別支援教育について校長を含めた教員の意識を取り扱う報告が多くなされてきた^{[3][4][5][6][7][8][9][10][11]}。しかしながら、校長の特別支援教育に関わる意識を

重点的に調査した研究は少なく、吉利・吉海（2006）^[7]、米沢・岡本・林（2011）^[11]など、散見される程度である。

吉利・吉海（2006）^[7]は、特別支援教育が本格実施される直前の校長の意識を明らかにしている。この報告において、校長の多くが特別支援教育の理念については賛同するものの、その推進においては多くの課題があると考えていることが明らかにされた。さらに、特別支援教育を推進する上での学校経営戦略として、「保護者との連携」と「校内委員会の推進」が重視され、推進に向けた課題としては「専門性の高い教員の育成」があることが明確にされた。

また、米沢・岡本・林（2011）^[11]においては、校長と特別支援教育コーディネーターと担任教師との意識が比較されており、校長はコーディネーターや担任教師と比較して、「意識改革・共通理解」、「児童・保護者との信頼関係」、「校内連携」、「専門機関などとの連携」、「支援の実施」の5つの領域すべてにおいて、現状を肯定的にとらえる可能性が示唆された。しかしながら、この研究は校内の職位における意識の違いが大きなテーマであり、特別支援教育に関する意識自体について問う研究ではなかった。

特別支援教育が本格実施され5年経過した現在、校長の特別支援教育に関する意識はどのように変化し、変化しなかったであろうか。今回の研究の目的は、特別支援教育の黎明期における校長の意識を調査した吉利・吉海（2006）^[7]と比較し、現在の校長の特別支援教育に関する意識はどのようなものとなったのか確認することにある。

Ⅱ 方法

A市内の小学校長を対象としてアンケート調査を実施した。アンケートは、A市校長会主催の特別支援教育に関する研修会において配布し、研修開始前に記入するように伝え、研修後回収した。アンケート項目は、吉利・吉海（2006）^[7]において使用された項目を論文から読み取り、第一筆者の了解を得て使用した（巻末資料参照）。

Ⅲ 結果

1. 回収率

回答はその場で回収した。回収率は96.1%（25）—括弧内は実数、以下同様—であった。このうち、2つの回答は、空欄が多かったため無効とし、23の回答を分析対象とした。

2. 特別支援教育に関する知識

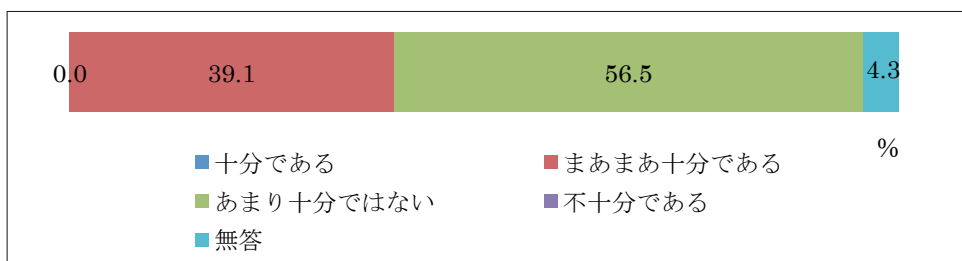


図1 特別支援教育に関する知識の自己評価

図1に特別支援教育の知識に関する自己評定を示す。

「十分である」、または「不十分である」とした回答はない。「まあまあ十分である」39.1% (9)、「あまり十分ではない」56.5% (13)、無答4.3% (1)であった。

3. 特別支援教育の理念に対する支持

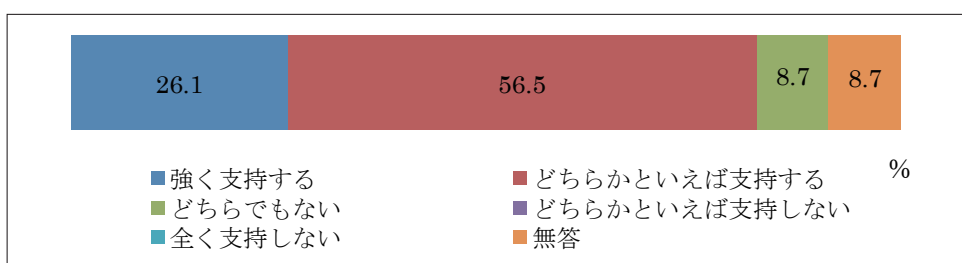


図2 特別支援教育の理念に対する支持

図2に特別支援教育の理念に対する支持を示す。「強く支持する」26.0% (6)、「どちらかといえば支持する」56.5% (13)の2つを合計すると82.6% (19)であった。また、「支持しない」、「どちらかといえば支持しない」とした回答はなく、特別支援教育の理念に関して、全員が肯定的にとらえていることが明らかとなった。一方、自由記述された内容からは、「様々な子どもがおり、その子ども達を社会に出していくためには、いろいろな人と関わる経験が必要である（強く支持する）。」という共生社会の理念に基づく意見、「児童に一人一人に応じた支援が必要である（どちらかといえば支持する）。」といった個に応じた指導という観点からの意見など肯定的にとらえた回答がある一方で、「理念は素晴らしい（強く支持する）」といった、見方によっては現状を批判的にとらえたと考えられる回答もあった。さらに、「従来の一斉指導では限界がある（どちらかといえば支持する）。」、「実態に幅がありすぎ、普通学級での対応には限界がある（どちらかといえば支持する）」、「すべて同じように対応するという極端なインクルーシブには賛成できない（どちらかといえば支持する）」、「専門的な知識のあるスタッフが必要（どちらともいえない）」など、推進するにあたっては解決すべき問題があるとする回答もあった。

4. 特別支援教育を推進するために重視すること

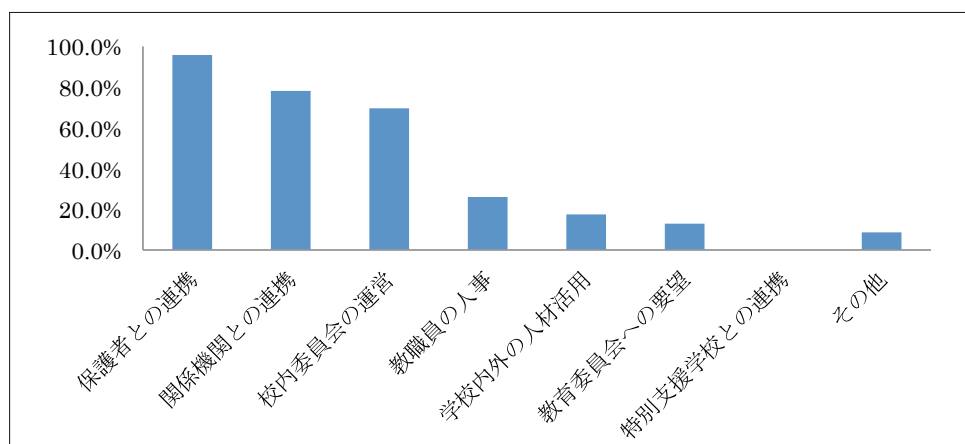


図3 特別支援教育を推進するために重視する方略（主なもの3つを回答）

図3に特別支援教育を推進するために重視することを示す。「保護者との連携」95.7%（22）、「関係機関との連携」78.3%（18）、「校内委員会の運営」69.6%（16）が多くの学校において重視された項目であった。一方で、「教育委員会への要望」,「学校内外の人材活用」,「教職員の人事」といった項目について重視するとした回答は少なかった。特に,「特別支援学校との連携」とした回答はなかった。「その他」として自由記述によって回答されたのは,「校内と校外両面において推進する」,「教職員の専門的な知識が十分ではないため, アセスメントとそれに基づく指導を外部に委託する」であった。

5. 特別支援教育における全校児童の理解推進に関する取り組み

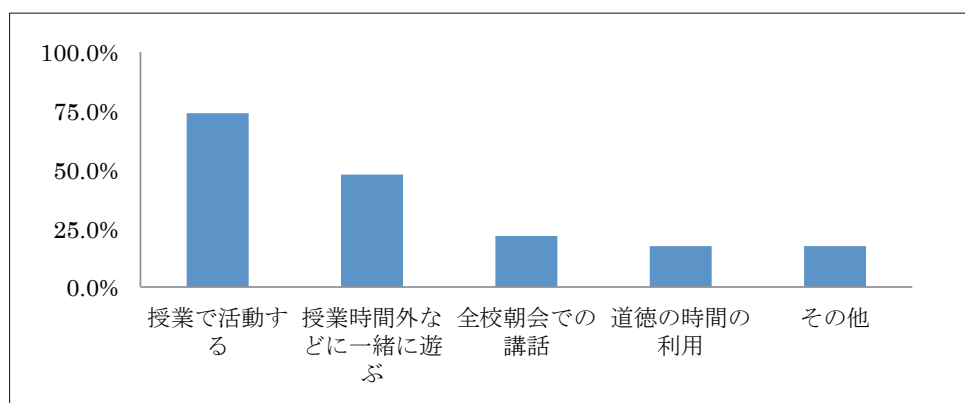


図4 児童の相互理解のための方略（複数回答）

図4に特別支援教育における全校児童の理解推進に関する取り組みについて示す。回答の多くは「授業で一緒に活動する」73.9%（17）,「授業時間などに一緒に活動する」47.8%（11）といった, 子どもがともに活動することで理解が促進する事を期待するものであった。また, その他としては「毎年テーマを設けて学習している。今年度は聴覚障害。」と

のように、テーマを設け系統的な学習を実施しているというものや、「保護者への働きかけをととして児童理解を図る。」といったものもあった。

6. 特別支援教育に関する職員の校内研修について

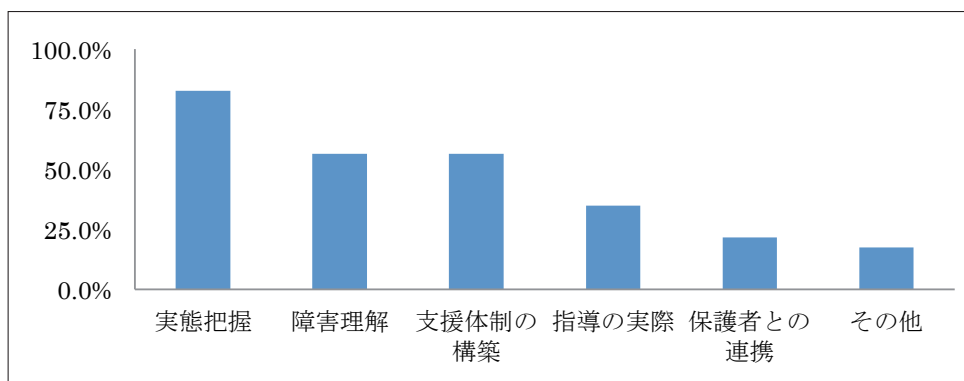


図5 学校で行われる特別支援教育に関する研修の内容（複数回答）

特別支援教育に関する校内研修は22校で実施されていた。図5にその校内研修の内容について示す。その結果、「実態把握」に関するものが82.6%（19）で最も多く、続いて「障害理解」、「支援体制の構築」に関するものが、ともに56.5%（13）で続いた。一方で、保護者との連携については21.7%（5）で、最も少なかった。また、「その他」とされた内容の中には外部講師の招聘が複数あった。

7. 特別支援教育コーディネーターについて

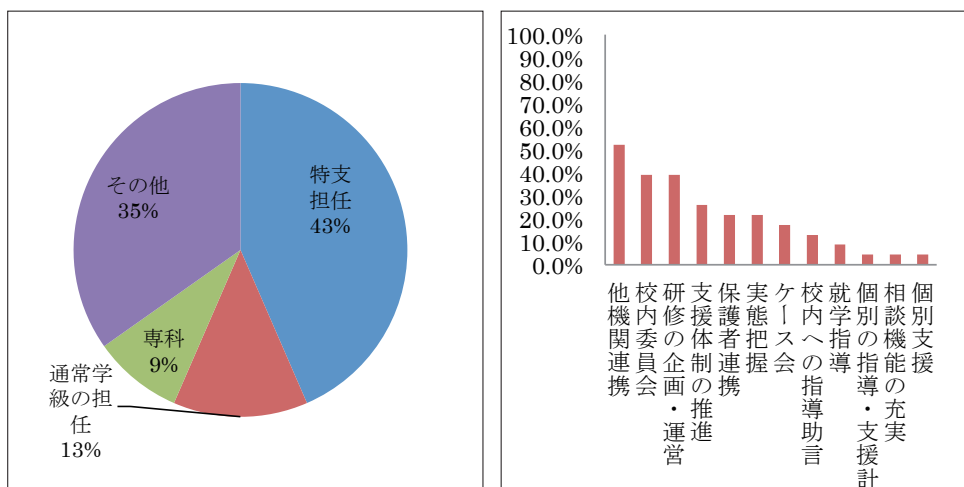


図6 特別支援教育コーディネーターの属性

図7 その業務内容

特別支援教育コーディネーターの校内での属性について、図6に示す。最も多かったのは、「特別支援学級担当者」で43.4%（10）であった。「その他」とされた回答は、校内に

おける分担や担当とは関係なく「特別支援教育に知識のある教員」(2),「保護者や児童から信任のあつい、優れた教員」(2) などがあった。続いて、コーディネーターの職務の内容を図7に示す。すべての回答に共通する職務の内容はなかった。最も多いものは「他機関との連携」52.2%(12) であった。続いて、「校内委員会」、「校内研修」が続いた。一方で、「個別の指導」、「担任への指導助言」などの回答は少数であった。

8. 個に応じた教育的な対応について

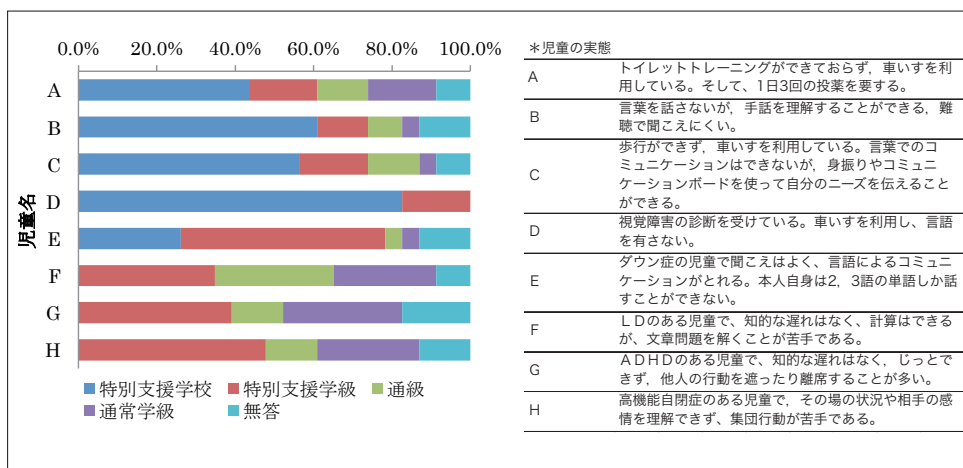


図8 個に応じた教育的対応について

図8に児童の実態と、それぞれの就学先として適当と考える学校・園について示す。この児童の実態は、吉利・吉海(2006)^[7]において示された実態と同様である。この実態の中で、A児、B児、C児、D児、E児は、当時の養護学校への在籍が勧められたケースであった。今回の調査では、これらの児童については、特別支援学校、あるいは特別支援学級とした回答が多く実際の判断に則った結果と言えよう。一方で、発達障害が疑われるF児、G児、H児においては、多様な判断があった。これらの結果は、吉利・吉海(2006)^[7]の結果と同様であった。

9. 特別支援教育の推進に当たって重要であると考えられる取り組み

特別支援教育の推進に当たって、重要であると認識されている取り組みを図9に示す。この設問は自由記述によって回答された内容からカテゴリー化して計数した。最も多いのは「教員の専門性の向上を目指した研修」39.1%(9)であった。続いて、「保護者の特別支援教育に関する理解の向上」17.3%(4),「人的配置の充実」,13.0%(3)であった。

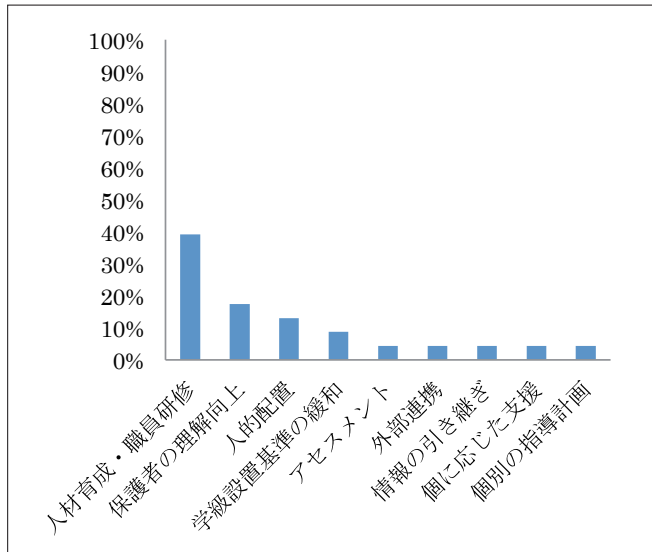


図 9 特別支援教育の推進にあたって重要であるとする取り組み（複数回答）

10. 特別支援学校との連携について

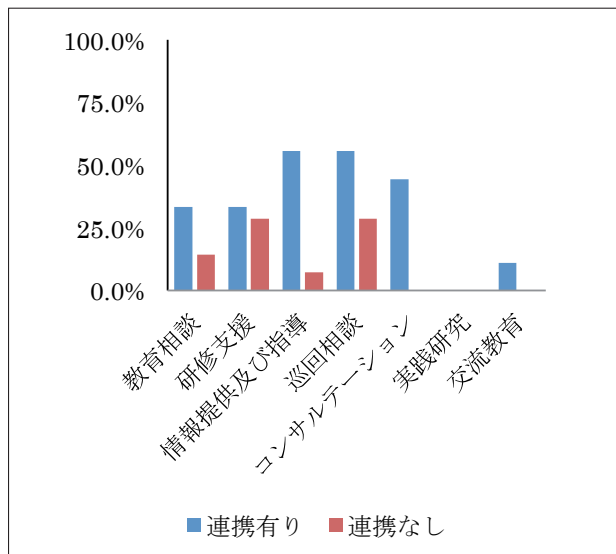


図 10 特別支援学校に期待する支援内容と連携経験の有無（複数回答）

これまで特別支援学校と連携した経験については、ある者が39.1%（9）、ない者が60.8%（14）であった。それぞれが特別支援学校に今後期待するとした支援内容の比較が図10である。いずれの項目においても連携経験のある者の期待が、経験のない者と比較して多い。特に「情報提供および指導」については期待するとした者が連携した経験のある者では55.6%（5）、経験のない者では7.1%（1）であった。

Ⅳ まとめ

特別支援教育が2007年に実施され、今年度で5年が経過した。この間、小学校長の特別支援教育に関する意識はどのように変化したのか、あるいは変化しなかったのか調査することが今回の研究の大きな目標であった。参考とした吉利・吉海（2006）^[7]の研究と比較すると、調査対象は小規模ではあるが有効回答率が9割を超えており一定程度の実態が明らかにされたのではないかと考えている。

今回の調査から多くの内容で先行研究と同様の傾向が明らかとなった。特別支援教育に対する態度としては、理念に賛同するものの、実際の推進においては解決すべき問題が多いと考えており、自己の知識についても十分満足できるとはいえないと感じている者が多い。また、特別支援教育の推進のための方策としては、保護者との連携が重視されており、特別支援学校との連携を重視する者は少ない。続いて、学校における児童の相互理解に関しても、授業などで一緒に活動するとした者が最も多い。

学校現場において対応や課題が大きく変化していない背景として、予算的な裏付けが少ないことが考えられるのではないだろうか。一例として、文部科学省における予算の推移を確認すると、2004年から2006年にかけて予算額の大幅な下落があった後、2007年以降緩やかに増加はしているものの、ほぼ横ばいであった^{[12] [13] [14] [15] [16] [17] [18]}。我が国の財政状況を考えると、横ばいというこの事実も決して非難されるべき実態ではない。しかしながら、同じ資料に見られる特別支援教育対象となる児童・生徒の大幅な増加から考えると、児童生徒1人あたりの予算は確実に減少しており、学校現場の特別支援教育に関わる熱意を十分にくみ上げているとは言えない。特別支援教育に関する意識調査に関して多くの報告に確認される人材不足、人手不足^{[6] [7] [8] [10]}の根本的な解決は現状では困難であろう。

この一方で違いが確認された項目もあった。校内での教職員向け研修の内容について、吉利・吉海（2006）^[7]の調査では「障害理解」とした者が最も多かったが、今回の調査では「実態把握」とした者が多かった。個々の児童の教育的ニーズをていねいに把握し、それに基づいた支援を提供することが特別支援教育の原点^[1]であるならば、単に障害の特性を理解するのではなく、個の実態を把握しようとするこの傾向は、特別支援教育がゆっくりではあるが確実に根付きつつあると考える事ができる。しかし、この点について結論を出すには、その差がわずかで一地域における調査であるため、今後の調査が必要である。

次に、特別支援学校の役割について、今回の調査において特別支援学校に期待する支援内容と特別支援学校からのサポート経験の有無について確認した。先行研究において、橘・津村・吉永（2004）^[5]は、特別支援学校への期待が高くないことを指摘した。期待が低いことに関しては、先行研究と同様であるが、今回の調査においては、これまでの被サポート経験の有無によって期待する支援内容が大きく違うことが明らかとなった。被サポート経験のない者に比べ、被サポート経験のある者では情報提供やコンサルテーションなど多くの項目において期待をしていた。特別支援学校は地域のセンター的役割を担うとされ、通常の小中学校などの教員への支援機能をもつことが役割の一つとなった^[2]。今回の調査結果は、特別支援学校のセンター的機能の役割が通常教育の中で一定程度の認識

と期待を得たことを反映すると考えられる。すなわち、特別支援学校と連携して通常の学校における教育を実践展開することが有益であったという評価がこのような期待へとつながっていると考えられるからである。従って、特別支援学校のセンター的な役割に基づく小中学校への支援事業の拡大に伴って、このようなサポート業務への期待は、一層の増加があると予想される。一方で、特別支援教育の推進において重視することを尋ねた設問において（図3参照）、特別支援学校との連携を重視するとした回答はなかった。この点について、上記の内容と不整合がある。A市内には特別支援学校がなく、最も近い特別支援学校もA市役所から車で1時間程度離れた地域にある。このような地理的な条件によって、連携を重視するとした回答がなされなかった可能性もある。また、特別支援教育の推進において重視するという問いにおいては、連携の具体例が説明されておらず、回答者がどのような行為を連携と考えたかによって左右された可能性もある。

今回の調査において、これまでの先行研究と比較して特筆するような違いは見いだせなかった。特に、理念への賛同と推進に関する課題についてはこれまでと変わっておらず、行政的な何らかの施策を実施する必要性が確認された。一方で、実際の教育の推進においては「障害の理解」から「実態把握」へと研修ニーズの変容が見られ、特別支援学校のセンター的な役割への期待の今後の高まりが予想された。今後、すべての子どもの教育がどのように実施されていくのか、注意深く見守るとともに、今後の取り組みに期待したい。

引用文献

1. 銭谷真美（2007）. 特別支援教育の推進について（通知）. 文部科学省初等中等教育局.
2. 中央教育審議会（2005）. 特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）. 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課.
3. 秋山邦久（2004）. 特別支援教育に対する小中学校教員の意識に関する調査研究. 人間科学研究, 26, 55-66.
4. 田中宏美・池本喜代正（2004）. 特別支援教育推進のための教育支援体制. 宇都宮大学教育学部 教育実践総合センター紀要, 27, 285 - 294.
5. 橘英彌・津村孝幸・吉永あゆみ（2004）. 特別支援教育への移行に対する教師の意識研究. 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 14, 1-9.
6. 松井剛太・七木田敦（2005）. 特別支援教育に関する幼稚園教諭の意識について—広島県内におけるアンケート結果から—. 広島大学大学院教育学研究科紀要, 54, 379-384.
7. 吉利宗久・吉海真澄（2006）. 小学校長における特別支援教育の理解と学校経営に関する調査兼研究. 京都教育大学教育実践研究紀要, 6, 101-109.
8. 川口恭子・江田裕介（2006）. 教員の意識調査に見る特別支援教育の現状と課題. 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 16, 17-25.
9. 山本憲子・都築繁幸（2007）. 特別支援教育に対する小学校教師の意識に関する一考察（3）. 愛知教育大学教育実践総合センター紀要, 10, 229-236.
10. 石原廣人（2008）. 軽度発達障害に関わる教員の意識調査—Y県小中学校の実況—. 健

康科学大学紀要, 4, 29-41.

11. 米沢崇・岡本真典・林孝 (2011). 小学校における特別支援教育の推進状況についての意識調査. 教育実践総合センター研究紀要, 20, 337-342.
12. 文部科学省 (2005). 特別支援教育資料 (平成 17 年度).
13. 文部科学省 (2006). 特別支援教育資料 (平成 18 年度).
14. 文部科学省 (2007). 特別支援教育資料 (平成 19 年度).
15. 文部科学省 (2008). 特別支援教育資料 (平成 20 年度).
16. 文部科学省 (2009). 特別支援教育資料 (平成 21 年度).
17. 文部科学省 (2010). 特別支援教育資料 (平成 22 年度).
18. 文部科学省 (2011). 特別支援教育資料 (平成 23 年度).

資料 「アンケート用紙」(1 ページ目は除去した)

<p>質問 1 あなたは特別支援教育に関して十分な知識がありますか。 【①十分である ②まあまあ十分である ③あまり十分ではない ④不十分である】</p> <p>質問 2 あなたは特別支援教育が掲げる諸理念を支持しますか。 【①強く支持する ②どちらかといえば支持する ③どちらでもない ④どちらかといえば支持しない ⑤全く支持しない】 その理由をご記入ください</p> <p>質問 3 特別支援教育を推進するために重視することは何ですか。主なもの 3 つに○をしてください。 【保護者との連携 校内委員会の運営 関係機関との連携 学校内外の人材活用 教職員の人事 特別支援学校との連携 教育委員会への要望】 その他(具体的に)ご記入ください</p> <p>質問 4 特別支援教育における全校児童の理解推進に関してどのような取り組みをしていますか。 【①授業で一緒に活動する ②授業時間外に一緒に遊ぶなどして関わる ③全校朝会での講話 ④道徳の時間の利用】 その他(具体的に)ご記入ください</p> <p>質問 5 特別支援教育に関する教職員の理解推進と専門性向上のために校内研修をしていますか。 【①している ②していない】 どのような内容の研修を実施していますか 【障がい理解 児童の実態把握 校内支援体制の構築 保護者との連携 指導の実践】 その他(具体的に)ご記入ください</p> <p>質問 6 特別支援教育コーディネーターの指名と校務分掌への位置づけ (1) あなたの学校では、どのような先生に特別支援教育コーディネーターを指名していますか。 【 ②特別支援教育コーディネーターはどのようなことを行っていますか。 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓</p>
--